

平成30年度埼玉県オハイオ州スカラシップ  
機械工学インターンシップコース レポート⑨

「My English」

山本 達也

・インターンシップ編

このレポートを書いている時、もうすでにインターンシップ期間を過ぎています。4月も終わりに近づき、会社の人と良く話すようになりました。この期に及んでもっと話をしておくべきだったと後悔しています。もっと相手の事を知りたいと、もっと自分の事を伝えたいと、今更ながら、強く思いました。

帰国も間近になり自分の携わったプロジェクトのフィードバックを集めました。また、不十分なところがないか確認していました。そして、最終プレゼンをしました。この留学プログラムの意義が問われるため緊張しました。そのなかで今までのプロジェクトやプロジェクト外でやったこと、会社の人やフィンドレーの人々の関係を説明しました。上司の方からはアドバイスをたくさんもらった事、同じ部署の人々が色々な方法でコミュニケーションを図ってくれたこと、メンテナンスの人々がよく世間話をしてくれたことや工具を貸してくれた事などを話しました。また、日本とアメリカの違いや同じ事も説明しました。その中で個人的に面白いと思ったことはアメリカではヘルメットよりも保護ゴーグルを重要視する事、日本ではその逆であること。そして、共通の事は手の汚れをパーツクリーナーで落とすことです。これは本当はやってはいけないのですが万国共通のようでした。私も研究室ではよくやっていました。

最終日にラインリーダーの方にビールを2本渡し、オフィスの人々と写真を撮ってもらいました。



お世話になったトロイ氏



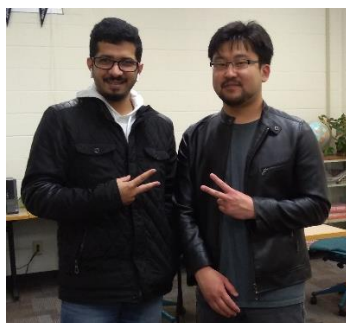
オフィスの人々

## ・フィンドレー大学での生活編

今回のテーマは私の英語についてです。この留学に来る前に一度留学を経験しており、多少英語は覚えていると思っていましたが、フィンドレーに到着した時、私はほとんどの英語を忘れており、日常会話すら厳しいレベルでした。そこから英語を新たに学び始めて、徐々に話せるようになることがとても楽しかったです。その後、大学や会社で伝えたいことを言葉にすることが出来るようになりました。それでもまだまだ足りなくて、本当に伝えたいことを伝えられずに、フラストレーションを感じながらも、色々な人の助けを借りながら英語を学び続けました。授業で先生たちは大変わかりやすく英語を教えてくださいました。ELL サポートセンターという、英語補講室では、現地の学生に英語をよく見てもらいました。ランゲージエクステンジに協力してくれたアンナさんやアレックスさんのおかげで留学に来る前よりも遥かに話せるようになりました。そんな経緯があり、私の英語力は格段に上がりました。4月の初めにサウジアラビアのクラスメートが私に時間を作ってくれと言いました。私の英語が好きだと言ってくれました。だから自分と会話する時間を作ってほしいと言われました。とても、自信につながりました。

フィンドレー最後の日にはいろいろな人に挨拶に回りました。回っているうちにお世話になった人がたくさんいる事を再認識しました。いろいろな人の助けがあって、今の私があると思えました。お世話になったアドバイザーの川村先生、ELL サポートセンターのアブドーラ、ランゲージエクステンジのアレックスと写真を撮りました。

留学中、英語だけを学んだわけではありません。人との関わり方や日本の独自性や他の国の文化、何よりも互いに助け合う尊さを学びました。ただ、助けてもらう事の方が遥かに多かったように思います。



お世話になった人々と私